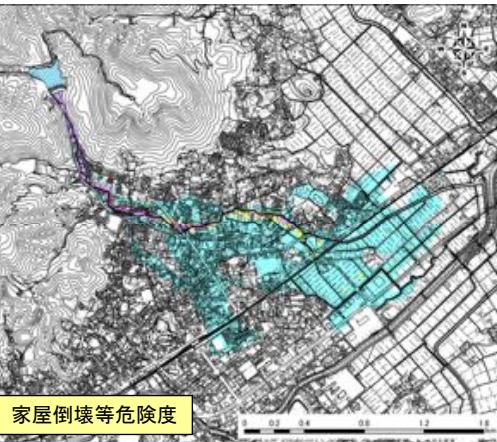
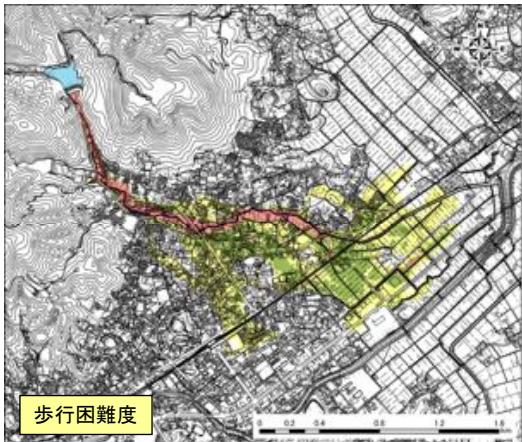
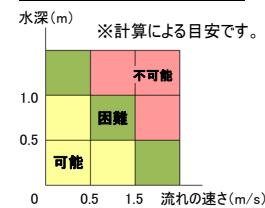


□ 水深が浅い場合でも水の流れが速いと危険です！



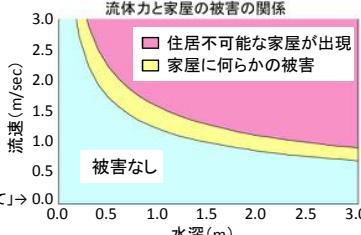
浸水中の歩行避難困難度



浸水し始めたら無理な避難をしない

歩いて避難できる水深の目安は、ひざくらいまでです。また、水深が浅くても流れが速い場合は危険です。浸水し始めたら、近くの高所へ一時的に避難し、流れが治まるのを待ちましょう。

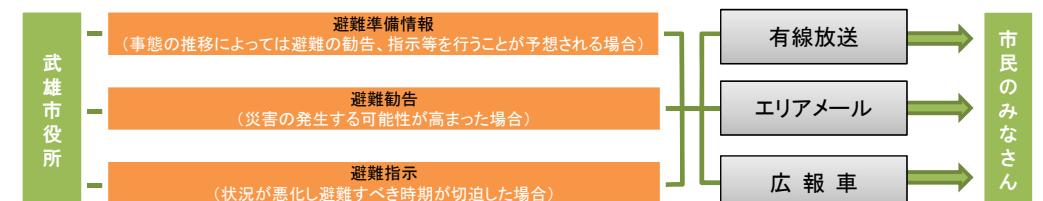
出典)「洪水氾濫の数値計算および家屋被害について」→(佐藤他、第37回水利講演会論文集 1989.2)



□ 避難に備え早めの情報収集を行いましょう。

情報源	情報の種類	ウェブサイトアドレス
たけおポータル	県内の防災関連情報や関連サイトなど	http://www.city.takeo.lg.jp/bosai/
防災・減災さが	県内の防災関連情報や関連サイトなど	http://www.pref.saga.lg.jp/bousai/
リアルタイム川の防災情報	全国の雨量情報や水防警報など	http://www.river.go.jp/
気象庁	全国の気象情報や地震情報など	http://www.jma.go.jp/jma/index.html

□ 市役所から呼びかける避難情報



気象状況などにより避難情報が聞こえない場合や、伝達が間に合わない場合もありますので、身の危険を感じたら早めに避難して下さい。

【ため池ハザードマップに関するご意見・ご質問は】

武雄市役所 TEL (0954)23-9335 (農林課) ホームページ <http://www.city.takeo.lg.jp/>
〒843-8639 佐賀県武雄市武雄町昭和12番地10

武雄市ため池ハザードマップ (川良内ノ子池)

作成:平成30年3月

この「ため池ハザードマップ」は、川良内ノ子池が決壟した場合に想定される浸水区域や水深、および避難に役立つ情報をまとめたものです。ため池が決壟するおそれのある場合または決壟した場合に、迅速かつ安全に避難するために役立ててください。



【川良内ノ子池の現状】

この池は、農業用水を確保することを目的として、昭和初期に谷をせき止めて築造されました。現在ではその豊富な貯水量と自然環境によって、利水はもとより動植物の生息・生育環境として貴重な役割も担っています。しかし、近年では施設の老朽化もみられ、施設の耐用能力を超える大雨や大規模な地震が発生した場合、堤防が損傷を受け決壟に至る可能性もあります。万が一ため池が決壟した場合、池の下流には一度に大量の水が短時間で押し寄せる可能性があります。

□ ため池ハザードマップの活用方法 (急な事態へ備えましょう)

【1】想定される浸水区域や深さなどをチェックしましょう。

- ・危険度やはん濫水の到達時間に応じた避難を考えましょう。
- ・災害時の様々な事態をイメージしましょう。



【4】日頃から家族や地域で話し合いましょう。

- ・災害時に協力し合えるよう、日頃から家族や地域で役割などを話し合いましょう。
- ・避難の際に支援が必要な要援護者への情報伝達や補助内容を決めておきましょう。



【2】避難場所を決めておきましょう。

- ・危険度やはん濫水の到達時間より、どこへ避難するかを決めておきましょう。
- ・浸水深が3mを超える区域は、緊急避難できる身近な場所を探しておきましょう。
- ・家族の連絡先を確認しておきましょう。



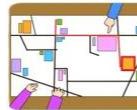
【5】防災情報の入手先を確認しておきましょう。

- ・ため池の堤防が被災すると、短時間で決壟に至る可能性がありますので、日頃から防災情報がどこで入手できるかを確認しておきましょう。



【3】避難場所までの避難経路を考えましょう。

- ・避難場所まで実際に歩いて、移動時間を確認しておきましょう。
- ・避難途中で浸水した場合に緊急避難できる場所を探しておきましょう。



【6】市が公表している他のハザードマップもご覧ください。

- ・武雄市ハザードマップには、大雨に伴う河川のはん濫や、その避難に関する情報を記載しています。このマップと併せて活用し、急な事態へ備えましょう。



武雄市ため池ハザードマップ（川良内ノ子池）

